



HIYOSHIDAI 平成28年9月1日

発行

日吉台学区自治連合会 日吉台学区まちづくり協議会

発行責任者 林 堅太郎 編集責任者 村澤 真保呂

題字は 4-11-2 梶谷清苑さん

# 日吉台をモデル地区に設定

## 市提案・定例役員会で協議

### 空き家対策

日吉台学区の空き家対策について、大津市は9日夜市民センターで開いた学区自治連合会と協議会(仮称)の合同協議で、地域内で実態調査を始めるなどとした。空き家等の活用方策の検討、協議方針を明らかにした。同市のこの方針案に対し、学区自治連合会は、調査の開始は住民の同意が必要不可欠としてこの日は判断を留保、9月に開く学区自治連合会に方針案を説明、提案する。

この日の合同協議には、市から山本幸司・建築指導課空き家対策推進室長ら5人、自治連合会から野々口義信・学区自治連合会長ほか学区まちづくり協議会委員、空き家対策委員ら15人が出席、市が選定した五十子修・都市環境研究所執行役三重事務所長らコンサル業者も出席した。

市側が示した日吉台学区における空き家等活用方策検討によると、総合的、計画的な空き家等問題対策の推進に向け、

日吉台団地をモデル地区に指定、有効な空き家等の活用方策の検討を行い、地域のまちづくり・活性化に活かせる活用方策の素案を作成、課題点、問題点を抽出、おなじような悩みを抱える市内の他地域にも活用できる総合的な対策案を構築する、としている。

日吉台で行う今後の具体的な作業については、日吉台に存在する空き家等の実態調査、他都市の事例、諸制度の調査研究、地域住民と事業者団体との意見交換会の開催方針を明らかにした。このうち、実態調査では、団地内の空き家等の目視による現況調査、所有者の特定、意向調査のアンケート実施、地域空き家マップの作成を行うとした。合同協議で、自治連合会、市やコンサルに対し、調査に対する考え、取り組み姿勢、空き家対策をまちづくりとして取り組む市の対応などを質した。実態調査などの開始にあたって、プライバシー上の問題もあり、自治連合会は、市、コンサル側に慎重な対応を求めた。9月に開く学区自治連合役員会に市が説明、了承を得ることを提案、市側も同意した。

# 検索に連絡網の利用を検討

## SOSネットワーク構築で

徘徊老人や、認知症の行方不明者を早期発見する「日吉台SOSネットワーク」構築づくりをすすめる学区自治連合各種団体検討委は7月の会合で自治会や自治連合会各種団体に使っている連絡網を捜索体制に活用することを決め、9月に開く学区自治連役員会に提案することにした。

学区内で、徘徊老人や行方不明者が出た場合の捜索をどのようにするかを検討、捜索をする手配ルートに各種団体が持つ連絡ルートを利用して一

斉手配することが、今のところ有効と判断、利用について学区自治連役員会の判断を仰ぐことになった。ただ検討委は、プライバシー上の問題もあり、捜索手配の発動はあくまで家族の同意を求め、この慎重な態度で臨むこととした。学区自治連役員会の同意がえられれば、さらに詳しく捜索連絡体制をつくりたい、としている。

# 災害に備え安否確認リスト作成

## 4東地区

大震災などの災害に備え4丁目東自治会自主防災部(石津正明部長)と同自治会(市川泰伸会長)は、緊急災害時の安否確認を行う「安否確認リスト」作成を決め、自治会加入、未加入を問わず町内全世帯に「緊急災害時安否確認記載者名簿」を配布、記入し任意での提出を求めている。

同自主防災部によると、災害時、助けを受けないと避難できない人や世帯については、ご近所情報として伝えられているが、正確なリストとして把握できておらず、災害に備えてリストの整備が課題になっていた。

安否確認記載者名簿には、各世帯別の避難行動要支援者、75歳以上、乳

幼児(未就学時)、小学生から74歳までの氏名、男女別、人数などの記入を求めている。情報の記入は、任意で強制ではない。しかし、災害発生時、助けを必要とする世帯や人については、氏名と年齢の記入は、ぜひお願いしたい、としている。住民から提出のあつ

また同自治会と同部は、このリスト作成に合わせ、緊急事態手順を策定。手順によると、地震、地すべり、山くずれ、大規模火災など緊急事態時は、第1次避難場所として「日吉台10号公園および第11号公園」に指定した。

明け方の虫取り散歩。大きなミヤマクワガタをみつけ大喜びする子どもたちもいた。

### 日吉台夏まつりにぎわう

#### サンパ演舞に大盛り上がり

平成28年度第18回日吉台夏まつり(日吉台学区自治連合会などの実行委主催)が7月30日、日吉



サンパで盛り上がる夏まつり会場

出店団体は13団体。縁日でおなじみのたこ焼き、焼きそば、焼き鳥、かき水、アルコール類、清涼飲料水ほかアクセサリー類など趣向こらしたお店が軒を連ねた。

### 学校で泊まろう

#### 子育て応援隊

学区まちづくり協議会の「子育て応援隊」は、8月2、3の両日、日吉台小学校で、「学校で泊まろう」を行った。

戸外で遊ぶ機会が減っている子供たちに、楽しい体験を通して豊かな夏休みを過ごしてもらえようと、子育て応援隊が初めて企画、73人が参加した。初日は、16時に集合、カレーを作り、19時から星空観察。段ボールで寝床をつくり、22時に消灯。翌朝は4時30分起床後虫取り散歩、ラジオ体操をして7時30分解散というスケジュール。

お泊りする日は、終日うす曇り。星空観察は無理かと思われたが、観察を始めた数十分後、土星が姿を現すミラクルも。「リングがくつきり見える」と子供たちも興奮気味に。寝る場所は、体育館。暑いのではと思われたが、比叡から吹き降ろす風はこちよく快適。明け方は寒いくらいで、応援隊メンバーが、子供たちのお腹にバスタオルをかけて回る光景も見られた。

また、会場には、お楽しみ広場も設置。ゲームコーナー、アニメ映画会、駄菓子屋さん、焼きそば、たこ焼きなどの模擬店ほか、午後1時から福祉バザーも開かれる。

第47回全国ママさんバレーボール大会(全国ママさんバレーボール連盟朝日新聞社主催)で、県代表として出場した日吉クラブは、C組2回戦から登場。奈良県代表に21-1で勝利したが、準決勝戦で山形チームに1-2で敗れ、3位となった。

### 福祉まつり開催

#### 9月11日

日吉台学区自治連合会と同社会福祉協議会は、敬老月間の9月11日、日吉台市民センターで「第12回日吉台福祉まつり」を開催する。

福祉まつりは、同日午前11時、高齢者の長寿を祝う式典「敬老のつどい」を開催。昼食会あとも日吉台幼稚園児による楽器演奏と歌、夕扇会による歌謡舞踊、民謡同好会の民謡をたのしもうなどのアトラクションも計画されている。

### お知らせ

2面掲載の漫画「ひよちゃん」は、紙面の都合で休載としました。了解ください。  
日吉台新聞編集部

日吉台住民の共有財産である日吉台コミュニティ基金。平成28年6月現在、預貯金と10年物国債(平成28年9月満期)合わせて約3,500万円の動産を保有している。日吉台コミュニティ基金が生まれた経緯と現状などについて基金を管理する日吉台コミュニティ基金管理委員会委員長の近原秀明さんに状況を聞いた。

「コミュニティ基金が誕生した経緯を教えてください。」

日吉台団地は昭和40年代半、日本地所が開発、昭和48年ごろ最初の入居が始まった。住宅内の排水処理は、雨水・汚水分流式で日吉台団地単独で行われ現在の多目的広場・いしづみの家の土地に集中処理施設が、大津市消防団日吉台分団の土地にポンプ施設が設置された。入居のさい、この汚水処理施設分担金として、入居者は日本地所または住宅メーカーに対し、10万円を拠出、これが日吉台コミュニティ基金の原資となった。昭和59年に大津市公共下水道が完成、日吉台も市の公共下水道

# 基金の金庫番



に接続することとなり、日吉台単独の処理施設の役目が終了した。単独処理終了にあたって大津市開発会社の日本地所と自治連合会の3者で話し合いが持たれた。2か所の施設の撤去は大津市の公費で実施、昭和61年11月19日、自治連は日本地所から施設跡地の所有権と残金を引き継いだ。土地および残金は、住民共有のものとして管理せざるを得ないとの結論が住民全員に周知され、昭和61年4月に日吉台コミュニティ基金管理委員会(以下管理委員会)が設立され管理委員会が今後動産の管理運用をする事が承認された。

「管理委員会はどのような組織で、どんな活動をしてきましたか。」

管理委員会は自治連合会推薦の2人、8丁から各1人計10人の委員から構成されており、自治連合会推薦の2人から管理委員会委員長1人、副委員長1人、8丁代表8人から互選により副委員長1人、会計1人、書記1人が選出され運営にあたり、これまで預貯金と国債の利子という事実で平成2年以來申請のあった16件の助成事業を行い、基金の運用、不動産の管理にも提言をしてきた。

「保有固定資産の登

## 近原 秀明さん (74)

大津市日吉台2丁目10-6



ちかはら・ひであき  
平成18年、23年日吉台公民館利用者団体(通称利団)の会長に就任。平成24年1月から現職の日吉台コミュニティ基金管理委員会委員長を務める。

記が個人から自治連名義へと変わり、今度は市に無償譲渡されました。複雑に変遷しています。住民にとって理解できていないのでは。

日本地所から所有権を引き継いださい、当時の自治連合会役員3人の個人名義で不動産3筆の(ポンプ場跡地は2筆に分割されていた)所有権移転登記がなされた。当時、自治会所有不動産の登記は個人名義でしか出来なかった。平成3年地方自治法の一部改正があり、自治会が「地縁団体」として認可されれば、自治会名義での登記が可能になり、平成15年2月の自治連合会臨時総会で、自治連合会を「地縁団体」とする決議を行い、この決議に基づき、大津市長は平成15年7月、日吉台自治連合会を「地縁団体」として認可、同年8月連合会役員個人名義の不動産3筆は、自治連合会名義に所有権移転登記された。

「学区自治連の財産なぜ市への無償譲渡になったのですか。」

まだ、地縁団体になる前の平成元年3月、問題の土地について市に無償譲渡する住民アンケートを取ったことがある。この時には、一部住民の反対があり、土地1筆を平成2年に公園及び多目的広場に(9年に一部内容改定)、土地2筆を平成6年に大津市消防団日吉台分団用地に用途限定、将来的には無償譲渡することがありうることを付して、大津市に無償貸与した経緯があります。平成26年に入り、過去の基金に関する種々歴史を踏まえて、管理委員会での討議、自治連合会、まちづくり協議会との討議を経て、「不動産3筆の大津市への無償譲渡を検討すること」を管理委員会として平成27年4月開催の自治連合会定例会に提案した。定例会では本提案は賛成多数で承認された。大事な案件であるので、(1)法律的な判断を弁護士に確認すること(2)臨時総会を開催して自治連合会会則第35条(資産の処分)に関して討議にかけ、所定の自治会委員の賛成を得ることとなった。

「無償譲渡では、かなりの論議を呼んだという感じがいました。」

平成27年10月18日に開催された臨時総会では、活発な討議が交わされたが、採決の結果委任状を含む出席会員2480人の内、2280人の賛成(書面で賛成含む)があり、「不動産3筆の大津市への無償譲渡」の件は可決となった。平成27年8月17日に大津市法律相談室を訪ね、「現在の土地名義人が自治連合会であるので、自治連合会総会にて、財産目録を明示して会則第35条に定める出席自治会員の四分の三以上の賛成を得ることで問題ない」と担当弁護士より法的確認を得た。臨時総会の後、自治連合会が大津市と協議、平成27年11月10日に土地3筆の大津市への無償譲渡が決まり、同年12月8日所有権移転登記が行われた。多目的広場・いしづみの家用地に関しては大津市と協定書を交わして、その管理を双方で行うこととなった。今後も管理委員会は自治連合会、まちづくり協議会と連携して住民の為の基金財産の有効な使い方を提案していきます。

## 坂本ふるさと散歩開催

参加者募集中

比叡山坂本活性化事業委員会(谷正男会長)と比叡山坂本観光ボランティアガイドの会・石積(小野寺眞見会長)は、ふるさと坂本の文化財を知ってもらう「坂本ふるさとサンポ」を10月16日に開催する。

坂本には、延暦寺、日吉大社、西教寺の三つの日本遺産がある。今回は、日吉大社を中心に散策、周辺の文化財をガイドの解説を交え探訪する。集合は同日午前9時、京阪坂本駅。日吉大社、日吉東照宮、慈眼堂、穴太衆積石垣を巡り生源寺で解散する。

参加費は200円、小学生以下は無料。別途文化施設入場料450円が必要。定員30人。申し込み締め切り10月10日。参加申し込みはFAX077157915503(佐方さん)

## 日吉子どもサミット 安全、安心のまちづくりなど討議

日吉ブロックの子どもたちが組織する今年度の第2回日吉子どもサミット

トが8月18日、大津市坂本の比叡ふれあいセンターで開催、子どもたちの目

線で、安全、安心などの、まちづくりについて議論を戦わせた。

この子どもサミットは、日吉ブロック内の雄琴、日吉台、坂本、下阪本の4小と比叡山、日吉の2中学校の児童会、生徒会で構成されたリーダー養成を目的にした組織。平成2年8月に設立され、アルミ缶回収によるユニセフ募金活動ほか、ヨシ

刈り、花のまちづくり、ふるさと大掃除、クリーン作戦などの地域活動を展開してきた。

この日のサミットでは、子どもたちは、各校区での活動、取り組みを報告したあと、各小学校校区に分かれ討議を行った。日吉台小学校の討議では、

昨年のサミットで子どもたちが、夜間学区内が暗く歩いていて不安、日吉台小前の通学路は坂道で車がスピードを出して危険など安全なまちづくりについて指摘していた点について、学区自治連側が回答。この回答を受け今

後の活動について討論を行い、比叡山中の生徒が提案して小学校前の通学路に設置した飛び出し防止のマスコット看板「吉鳥(よしちょう)」をもと知ってもらったため自治会配布の資料に「よしちょう」ロゴを製作、配

布できないか、夜間地域をもっと明るくするため、門扉灯、玄関灯の点灯奨励活動、高齢者の安否活動をおこなうあいさつ、声かけ運動を提案、全体会議で発表した。